

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(5月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『そらいっぱいいのこいのぼり』

羽尻 利門 作 / 世界文化社

対象：幼児から大人まで



内容のご紹介

周りの山々の新緑を目にし、自然を楽しむことができる季節となりました。4月の戸津辺の桜に全国からたくさんの方が訪れました。今年は約2万9千人の来客があり、年々戸津辺の桜のファンが増えています。

先日、緑の少年団と鮎の放流をしました。自然を愛する心を育てる環境づくりが大切です。

今月ご紹介する絵本は、ゴールデンウィークに孫たちが里帰りするお話です。5月の連休で孫たちと会う楽しみがある家庭もあると思います。5月5日の端午の節句は、男子の誕生に健やかな成長を祈る行事です。絵本を開くと自然豊かな情景が映ります。“鯉の滝登り”を見て、鯉が龍になる話のシーンは、子供の成長と夢を願うものです。

この絵本の地域は、矢祭町と同じく自然の中にあります。絵本の中でトンネルを抜けると公園があります。橋の上にはたくさんの鯉のぼりが泳いでいます。矢祭山公園に、この様な情景を描き、子どもの夢を育てたいと思っています。

この休日には、ご家族でこの絵本を読んでいただき、自然を楽しんでください。

ゴールデンウィーク、おじいちゃんの家でコイの滝登りを見たケンゴ。そこでおじいちゃんに、こいのぼりの由来について聞き……。 「どうしてこいのぼりをあげるの？」という、子どもの素朴な疑問にこたえながら、美しく細密に描かれた絵で、日本の端午の節句の風景を味わえます。

カバーでは絵探し、文字探しが楽しめ、本文中にも各見開きに絵本と関わりの深い言葉(5つの文字)が隠されています。絵を読む楽しさがよりいっそう深まる絵本です。

(紹介文: 世界文化社 / 矢祭もったいない図書館)